

図 14a マンガにみる顔の発育の特徴

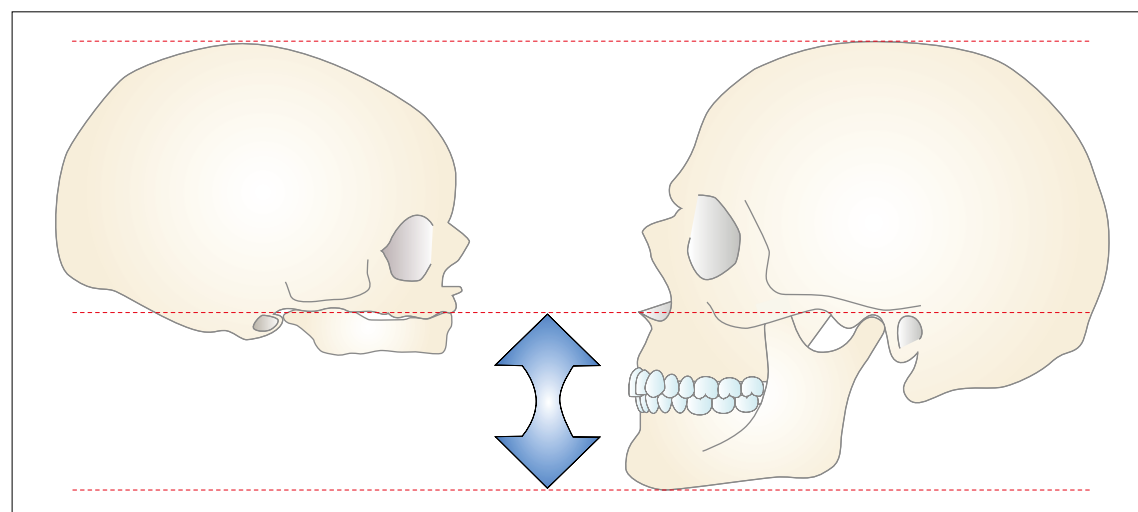


図 14b 顎顔面骨格の発育の特徴 (Lowery, 改変)  
顎顔面骨格の成長は、垂直的増加と咬合高径の増加が特徴的である。

## 04 歯の萌出と顎骨の成長

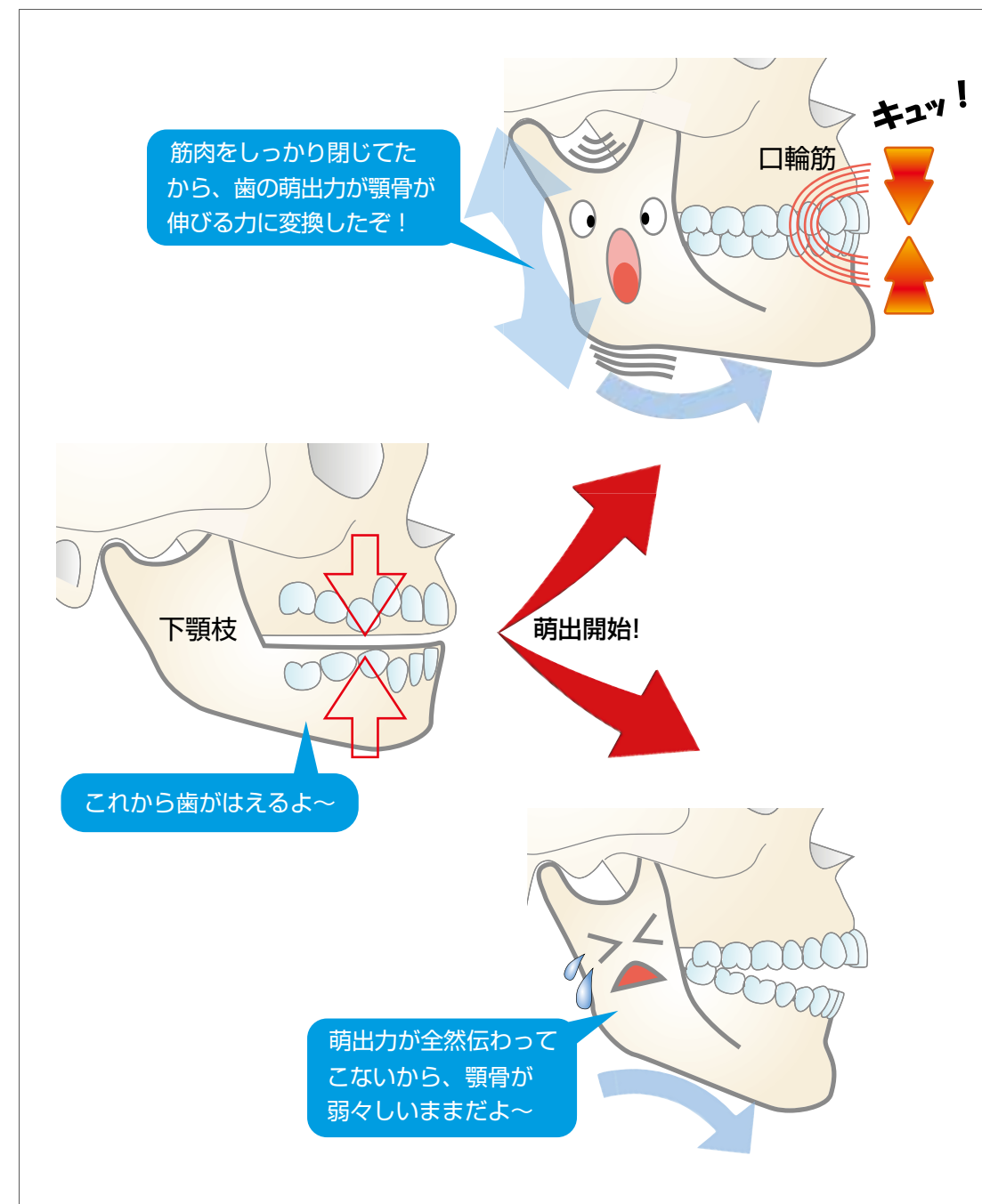


図 15 歯の萌出と顎骨の成長 (垂直的)

健全な咀嚼機能を備えているということは、長い人生においてかけがえのないものです。乳歯が萌出し、続いて第一大臼歯が萌出し、混合歯列期をむかえ、上下顎骨の成長 (図 12、13) が加速度を増します。単に、歯が萌出してくるのではなく、上下の歯が、顎関節の成長 (下顎骨の成長) に伴い、正しい位置で嵌合することが顎顔面骨格の形成 (図 13、15) においては非常に重要なことです。その際、咀嚼筋の要素も考えておかなければなりません (CHAPTER 3 p.121 「口腔筋機能療法」参照)。この乳・幼児期、学童期の

こんな子  
来たら？

CASE 01

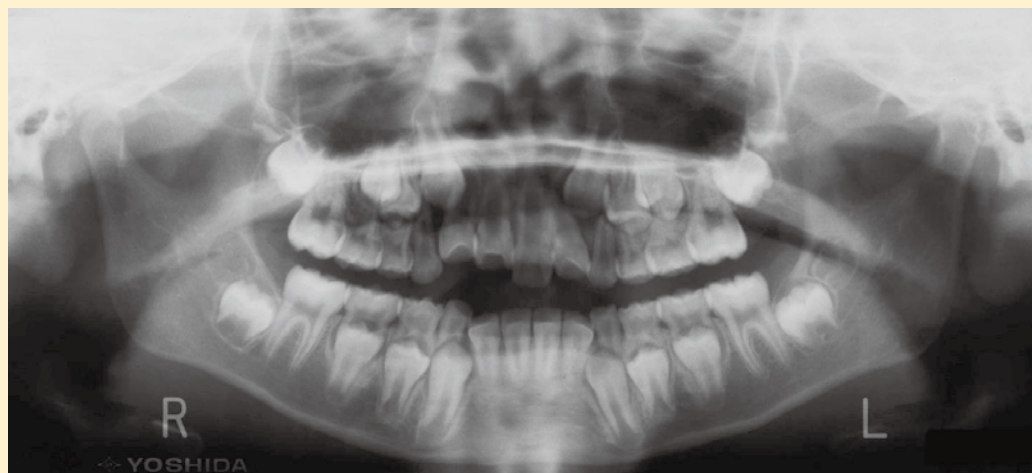
# 前歯が出ている子が 来たらどうするの？



▶ 診療のポイント 開咬をセファロで分析する。

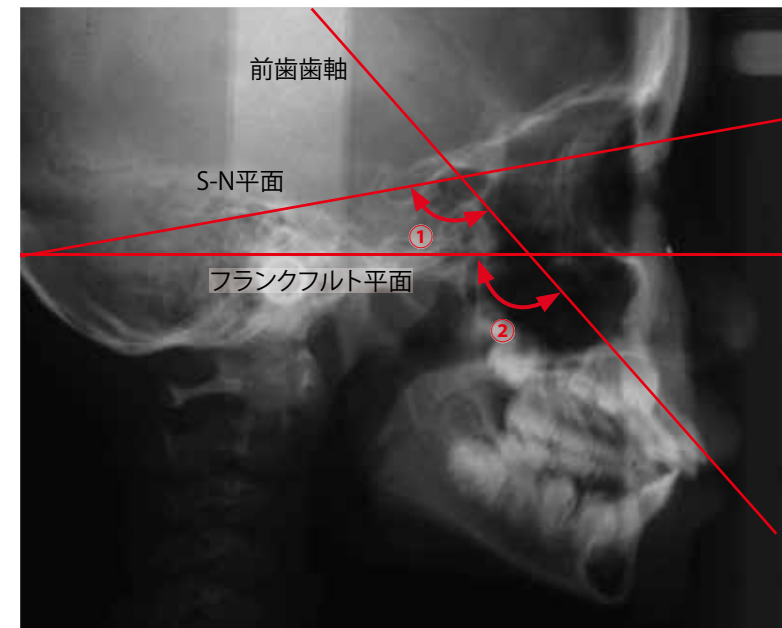
## 初診時

- 年齢・性別：10歳女児
- 主訴：上の前歯が出ている。
- 所見：前歯部に開咬を認める。過去に指吸いなどの習癖はなし。



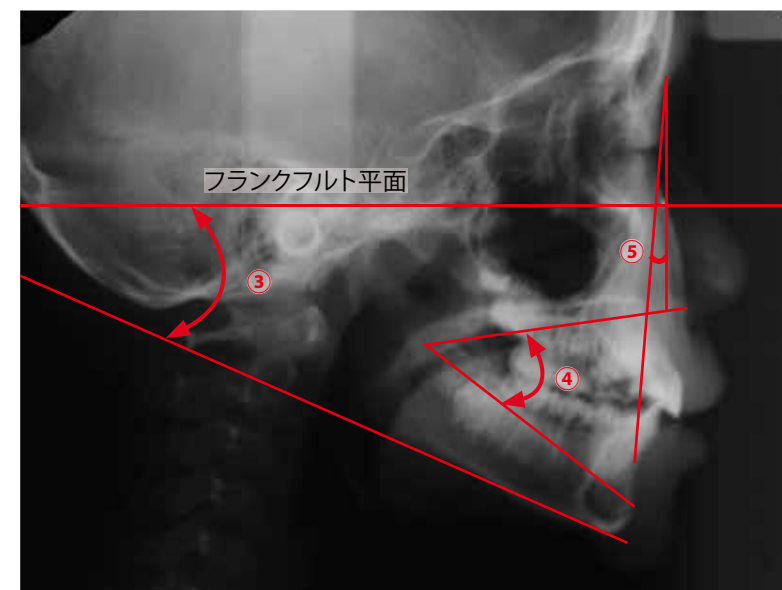
## 診断してみよう

### ▶ 前歯は出ているの？



- 1] の唇側傾斜  
前歯と基準平面でできる角度
- ① SN- 1]
- ② FH- 1]
- が大きい

### ▶ 開咬は骨格性？



- 咬合高径は少し低い
- ③ FH-MP が小さい
- ④ LFH が小さい
- 下顎はⅡ級傾向
- ⑤ ANB が大きい

POINT 前歯部は開咬のようにみえますが、骨格的には咬合高径が低いので、治療方針としては、咬合挙上させながら 1] の改善、下顎の前方適応をねらいます。





## 治療経過

術前



術後



下顎の右側偏位も改善されています。

術前



術後



16が自然整直し、6/6の関係が改善しています。

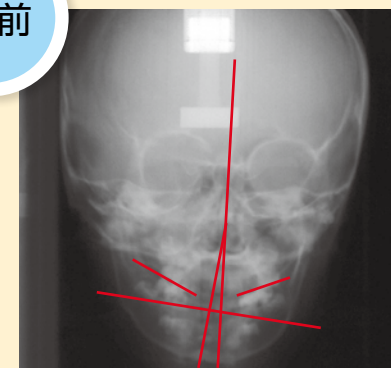
術前



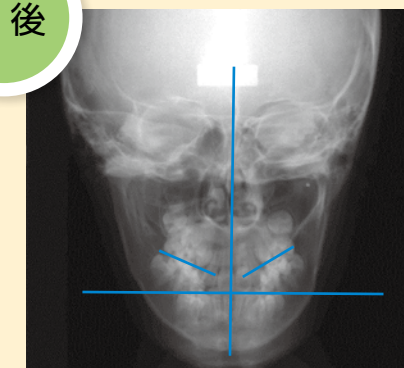
術後



術前

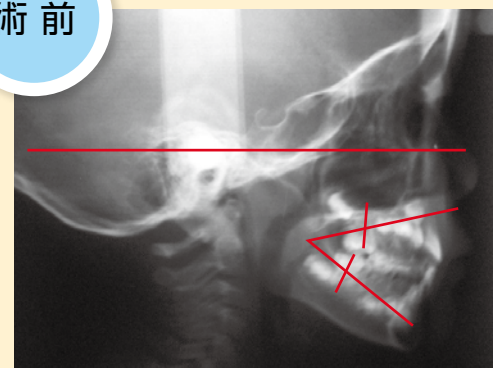


術後

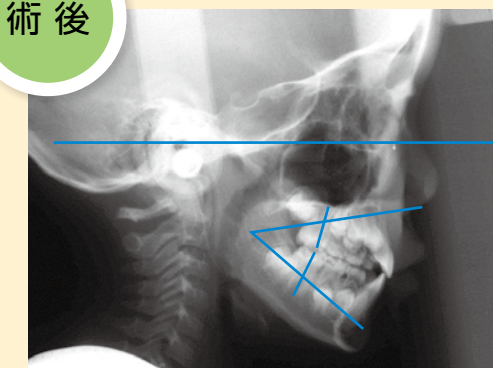


右側咬合平面が平坦化し、下顎の右偏位が改善しています。

術前



術後

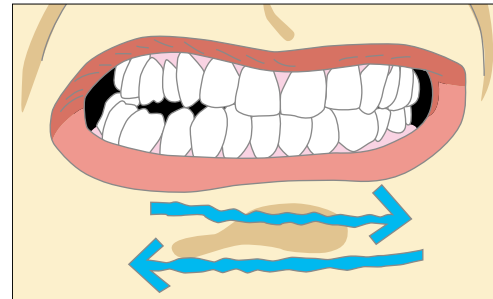


6の被蓋が改善されたことにより、咬合高径が上がり、下顎が前方適応することにより、6/6がⅡ級からⅠ級関係になっています。

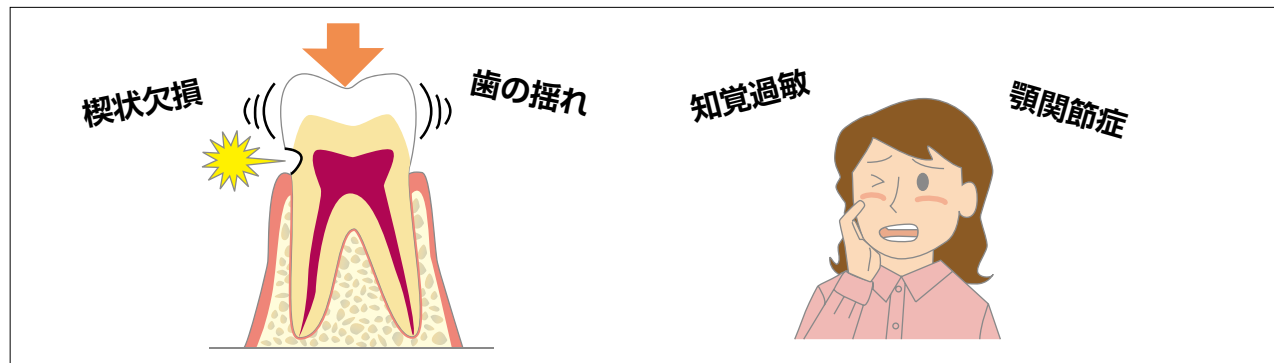
# 09 ブラキシズムとブラックスチェッカー

## ▶ ブラキシズムと歯科疾患

ほとんど全ての方が、寝ている間に歯ぎしりをしていると言われています。その時間は一晩で約 20～40 分、長い人になると 2 時間に達することもあるようです。その際に歯にかかる強さは、咀嚼運動をはるかにしのぐ、およそ自分の体重と同じ程度、もしくはそれ以上と言われており、う蝕、歯周病、顎関節症などのさまざまな歯科疾患との関連が示唆されています。



ブラキシズムは長年、原因不明の疾患として扱われてきましたが、近年の研究により、日中たまったストレスを発散するために行う生理的な運動である可能性が考えられており、現在はブラキシズムをやめさせるよりも、強大な力と調和する咬合およびその診断法の構築が求められています。(p.136「参考文献 18」参照)



ブラックスチェッカーとは、厚さ 0.1mm の極薄シートの片面に塗装を施し、加圧形成器でプレスしたものを夜間睡眠時に装着します。装着後のシートが削れて色が抜けたり穴が空いている部分を見て、咬合接触状態を診査します。また、ブラキシズムはライフスタイルの影響を受けるため、より正確な睡眠時の接触状態を診査するために 2 枚のブラックスチェッカーを作製し、1 枚につき 2 晩、合計 4 晩の平均的な接触状態をみて咬合診査をします (p.136「参考文献 19」参照)。



## ▶ ブラックスチェッカーの作成方法

### 用意するもの



加圧形成器 (ミニスター)



0.1mm ポリビニールシート (ロッキーマウンテンモリタ)

### 製作の流れ



① まず上顎の模型を埋め込みます。



② 220℃で 15 秒間シートを加熱します。



③ 加熱したシートを模型に圧接します。



④ ハサミでカットすれば完成です。



⑤ 圧接されたシートと模型をとりだします。

